

日刊木材新聞

第2回木のまち整備促進事業決まる

吉野石膏の単身寮が採択

国土交通省

国土交通省は20日、10年度の木のまち整備促進事業の採択プロジェクト（第2回追加分）を決定した。10件の応募のなかから4件が採択され、吉野石膏（東京都、須藤永一郎社長）の2×4工法で建設された単身寮も選ばれた。

採択されたのは、次一玉県、建築主〓古谷松ト（千葉県、吉野石膏）▽都支部における屋根上ガーデン付木造フーイメン構造3階オフィビル建築（愛知県、ディーファクト服

部進吾社長）▽ケアポート若松建設工事（飯称、福岡県、社会福祉法人聖恵会浦谷夏樹理事長）。

4件とも構造材の木造化で採択された。埼玉県杉戸町の保育園は、準耐火性を実現するための燃えしる設計で構造材を現しとしたほか、床材、腰壁、建具等に木材を使用して木質感を高め、若い親をはじめとした地域住民に対し、木造建築物の良さをPRできる案件であると評された。構造材は、LVL、集成材、羽柄材、内装部材まですべて県産材の利用を提案している。

吉野石膏の蔵波台社宅では、遮音性の高い床・壁の仕様や設備配管の完全分離など、木造集合住宅で分譲仕様のプロトタイプを具現化。メタルプレートコネクタを使用した国産杉トラスや床材への国産材合板の採用など、2×4工法での国産材活用も実践している。

ディーファクトの3階オフィビルは、大断面集成材を使用せず、コストパフォーマンスの高い住宅用流通部材を使用した準耐火構造の木造3階事務所ビル。木質ラーメン構造で、木造では難しいとされる屋上庭園を設置したほか、木造建築の可能性を追求した。

ケアポート若松建設は、延べ床面積が2000平方メートルを超える60分準耐火性能の2階建ての丸太組構法の有料老人ホームとしては全国で初めての建物。60分準耐火構造の床、壁仕様を採用し、丸太組構法での階数、用途の可能性を広げる提案であると評された。

使用する杉材は、輪掛け乾燥によって天然乾燥した後、人工乾燥で含水率20%以下に安定させる2段階の乾燥方法を採用し、乾燥過程における省CO₂を実現する計画だ。

使用する杉材は、輪掛け乾燥によって天然乾燥した後、人工乾燥で含水率20%以下に安定させる2段階の乾燥方法を採用し、乾燥過程における省CO₂を実現する計画だ。

使用する杉材は、輪掛け乾燥によって天然乾燥した後、人工乾燥で含水率20%以下に安定させる2段階の乾燥方法を採用し、乾燥過程における省CO₂を実現する計画だ。